府中地区保護司会だより

第 50 号

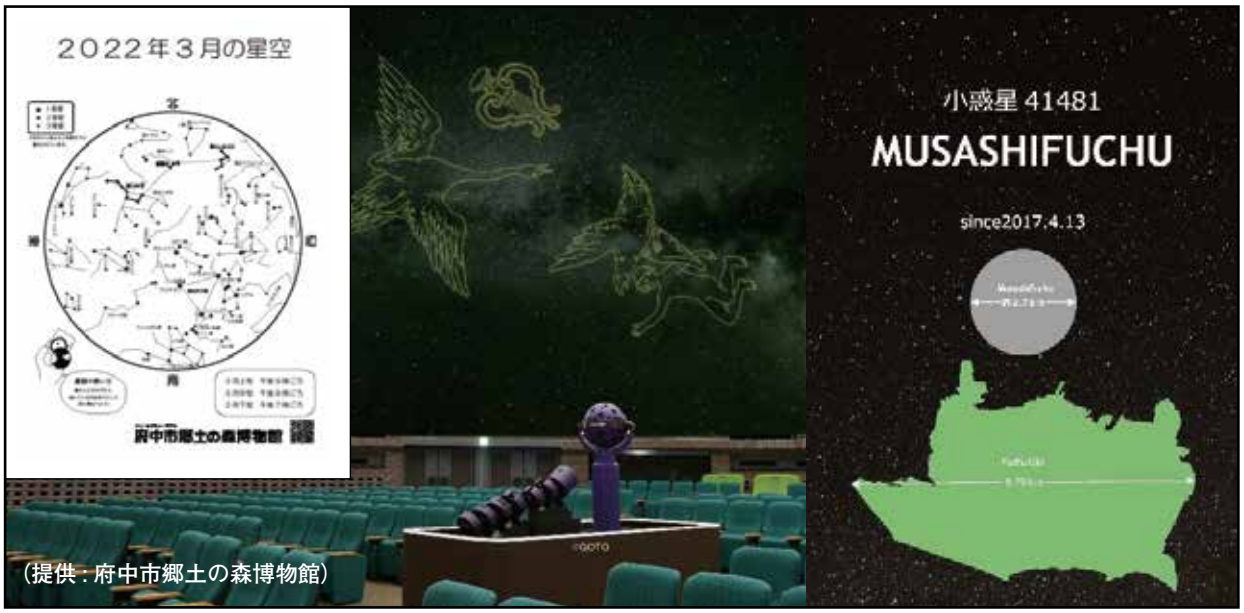
発　行　府中地区保護司会　会長　髙野佳子

★ Fuchu には Uchu がある

府中市産のプラネタリウムで府中から宇宙へ!! より本物に近い星空の再現にこだわり、追求したハイブリッド・プラネタリウムです。

★ Uchu の中の Fuchu

小惑星 Musashifuchu（ムサシフチュウ）は 2017 年 4 月 13 日に命名されました。今年 4 月に命名から 5 周年を迎えます。小惑星の直径は、府中市の約 3 分の 1 程度です。



（提供：府中市郷土の森博物館）

記念号発行に寄せて

府中市長　髙野律雄

このたび、「府中地区保護司会だより」が記念すべき第五十号を迎えられましたことを、心からお喜び申しあげます。また、府中地区保護司会の皆様におかれましては、日頃、犯罪や非行のない明るい社会づくりのために、多大なご尽力いただいておりますことに、あらためて厚くお礼申しあげます。

近年、青少年における犯罪件数は減少傾向にあるものの犯罪や非行はその内容が多様化しており、インターネットを利用したＳＮＳ等が普及していることに伴い、ネット上での誹謗・中傷等で精神的に追いつめ、痛ましい事件が発生する等、以前より犯罪が匿名化しており、我々においても気づきにくい状況が増えていると認識しております。

保護司の皆様におかれましては、コロナ禍の影響から今までとは違う活動方法を求められ、試行錯誤しながら、地域の様々な活動に取り組んでいただいておりますことに、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

本市といたしましても、令和四年四月より新たに第七次府中市総合計画を始動させ、行政、家庭、地域社会並びに関係機関とさらなる連携を深め、愛情をもって青少年の健やかな育成と地域の安全に取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬお力添えを賜りますようお願い申しあげます。

結びに、府中地区保護司会のますますのご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申しあげまして、ご挨拶といたします。

令和三年度　第7ブロック保護司組織運営連絡協議会に参加して

広報部　石塚　百合子

10月27日（水）、テーマ「保護司活動のＩＣＴ化について」、第7ブロックの5地区からそれぞれの導入状況、効果と課題そして課題解決の方策の意見書を提出し協議しました。

昨年同様にＺｏｏｍ利用によるリモート方式で行われ、府中地区はパワーポイントにて発表しました。

人と人の繋がりの大切さを基本とする保護司会活動においてもＩＣＴ化は重要な必須アイテムとなってきました。コロナ禍が去った後も、情報共有や伝達の時間短縮を目標として非接触型の会合や活動は、非常に有効な活動の手段の一つとなっていくと思われます。

今回、各地域のＩＣＴ化の試みを持ち寄り協議する機会をいただき大変参考になりました。特に協議会自体がリモートで行われ、各地域での簡便な集会を実行できたことは大変有意義であり同時に様々な課題も浮き彫りになったと思います。パソコンによるリモート発表は一定の工夫が必要であることを共有できたと思います。

ＳＤＧｓの17項目の一つにも掲げられておりますが、コロナ禍の折、学校教育にもＩＣＴ化の波は広がっています。私が勤務する幼児教育現場でも研修会はリモートと対面のハイブリット型で行うことが大分定着してきました。パソコンに精通したリーダーが一名いれば個々の事情に合わせて在宅か対面を選ぶことができ、参加者が増えることに繋がっています。

今後ＩＣＴ化は社会にますます広がっていくと思われます。今回の経験を活かし更なる保護司会活動の発展に生かされますことを期待しております。

実務研修会「Ｚｏｏｍの活用方法」

研修部　坪井　真由美

11月17日（水）、府中市市民活動センタープラッツに於いて、同センター事業運営担当総括・林丈雄先生を講師に迎え、令和三年度第二回の実務研修会が16名の参加者で行われた。

研修会は参加者が自分の携帯電話をプラッツのＷｉ－Ｆｉに接続するところから開始した。次にＬＩＮＥのインストール状況を確認し、まだの方は個別でボランティアの指導の下インストールを行った。参加者全員のＬＩＮＥの準備が整ったところでＺｏｏｍの説明が行われた。

講師から全員のＬＩＮＥに送信されたＺｏｏｍのＵＲＬをクリック、さらに「会議に参加する」をクリックすると、ＷＥＢ会議に参加できる。携帯の画面ということもあり、全ての人が画面に映らないが、右へスライドするとみんなの顔が映ることが説明された。

参加者たちは、すぐにできる方もいれば、なかなかできず指導者に説明を受けながら操作する方もいた。携帯電話の操作に慣れていない方は最初は難しいと言っていたが回数を重ねるうちに徐々に慣れ、また慣れている方は隣同士教え合いながら楽しんで操作していた。

新しいコミュニケーションツールとして、自宅にいながら、仕事をしながらなど様々な環境で集まらずに会議ができる便利さを感じ、各部会で活用できたらよいという声が聞かれた。

中学校生活指導主任会と保護司との懇談会

学校との連携委員会委員　古川耕央

ＣＯＶＩＤ−19が世界的に猛威を振るった事で前年は開催できなかった生活指導主任会と保護司との懇談会が、令和３年11月４日（木）、府中市立教育センターに於いて二年振りに開催された。

国内での感染は落ち着きを見せる中ではあったが、時間短縮や保護司の参加は学校連携委員のみとするなど規模を縮小しての開催となった。

会は髙野会長の開会の挨拶に始まり、続いて府中市教育委員会・酒井泰教育長、府中市中学校生活指導主任会委員長・佐藤光宏府中第八中学校長からそれぞれご挨拶いただき始められた。

今年度のテーマは「ＳＮＳに関わる問題事例」。このテーマに沿って保護司会、生活指導主任会よりそれぞれ一名が事例発表を行い、それを受けて五つに分けたグループで討議を行う形式で進められた。

保護司会からは、担当保護司が、自ら担当した対象者を例に犯罪につながる可能性について事例発表した。また生活指導主任会からは府中第八中学校の三浦雄悦教諭より、中学校の現場で起きている事例についての発表があった。特に、一年生が入学祝に携帯電話を買って貰った喜びで問題を起こしてしまう事が多いとの話には興味をひかれた。

グループ討議では活発に意見が交わされたが、問題行動に対して罰則なのかリテラシー教育の強化なのかなど、更生保護と教育という立場の違いによる考え方や対応の違いが明らかになった。

全体として非常に実りある会となり、今後も積極的に続けるべき事業だと強く感じた。

サポセンの窓 No.2

活動拠点の地歩を固める

サポートセンターふちゅう　総務　杉浦渉

①運営体制の充実を図る、②分掌活動を形にする、③企画調整保護司選任の新たな方向性を探る、この３点が今年度の重点課題であった。これらへの取り組み状況を検証して次年度の運営へとつなげていきたい。

臨機応変の対応で

運営の要となる運営委員会は、コロナ禍の影響で大幅に制限された。そのため半分ほどは役員会でカバーせざるを得なかった。また、駐在も日数や人員、時間を縮小して実施することを余儀なくされた。この先も不確定要素が多いと思われるが、状況に応じて柔軟に対応していきたい。今年度、第７ブロック保護司組織運営連絡協議会で協議題となったＩＣＴの有効活用も検討課題である。

成果を共有して

運営委員会の４分掌はそれぞれの取り組みの成果を形として残すことができた。

【サポートセンター活用の手引き】

11月に第１版を全会員に配布することができた。このことによりサポセンの活用が促進されることが期待できる。

【テーマ設定駐在日】サポセンへの入室制限により駐在日のテーマ設定はできなかった。だが、研修部と連携して一定の実績と方向性を示せた。

【備品等の整備】備品台帳の作成により何がどこにあるか活用の利便性が大きく向上した。今後、資料センターとしての機能充実も目指したい。

【サポセン広報】全会員に対して、駐在予定表をはじめ、タイムリーな情報を提供するための『サポセン情報』を着実に発行することができた。

みんなが当事者として

「すべての会員がいずれは企画調整保護司を経験できるようにする」―これが選任のコンセプトである。平成26年のサポセン開設以来様々な試行を重ねてきたが、企画調整保護司としての当事者意識を共有するべくたどり着いた結論である。これまで限られた人数で担ってきたサポセン運営体制を、どのように持続、充実させていくかは今後の工夫と努力にかかっている。

第五代会長　松本　俊雄

府中地区保護司会だより五十号発行おめでとうございます。

平成八年四月、府中地区が誕生。同時に広報部を含む四つの専門部が組織されました。広報部初代部長には、旧北多摩南地区の広報編集委員長をつとめられた渡辺勝彦氏が就任。豊かな経験と明るい人柄で今日の広報の礎を築かれたと思います。私の会長在任中、紙面のカラー化が大幅に進み、より親しみのある内容となりました。デジタル化の進む今日ですが、活字として紙面を残すことは貴重な存在です。会員のみならず多くの市民に読まれる広報紙。広報担当の皆様のご活躍を祈っております。

第六代会長　中込　健二郎

退任してから八年位経ちますが、突然会長職を申し渡され当時は何も分かりませんでしたので、まず初めに規約を改正し、本部役員会と言う組織を立上げました。

組織の内容は会長・副会長・会計・事務職で東京保護観察所から出された数多くの課題を、本部役員会で協議し理事会に諮り委員に報告しました。委員の皆様のご理解とご協力のお蔭で会の運営がスムーズに進行出来た事に感謝申し上げます。又、在任中に東日本大震災が発生し未曾有の大津波で大勢の被災者の為に三十万円を寄付した事など思い出されます。

第七代会長　保坂　昌代

組織活動の一環としての広報紙づくりは、熱心な部員たちのたゆまぬ努力により、毎号読みごたえのある内容になっております。

広報紙の歩み

第２３号
（平成 20 年９月１日）

＊「社会を明るくする運動」の街頭広報活動に、平成 20 年から中学生が参加
＊「府中の森芸術劇場」にて多摩地区更生保護事業関係者顕彰式典を開催

第１８号
（平成 18 年３月１日）

＊平成17年11月7日に市内11中学校の生活指導主任との懇談会を開催
＊学校との連携特別委員会活動報告書発行

第１１号
（平成 14 年９月１日）

＊学校との連携特別委員会発足
＊「社会を明るくする運動」の標語「ふれあいと対話が築く明るい社会」

第１号
（平成９年７月１日）

＊平成９年７月１日付で府中保護司会だより第１号を発刊
＊「社会を明るくする運動」の街頭広報活動を夕方に変更。(府中駅・府中本町駅・中河原駅)

広報紙の思い出

組織としての更生保護活動が市民の安心安全を支えている証として多くの関係機関等に配布され、その旨の理解へとつながっています。更に多くの方々からのお声をいただき活動内容の向上になっております。広報紙づくりは、原稿の校正等多くの回を重ねることにより完成されます。視野広く意義の高さが要求され楽しい一時でもあります。

第八代会長　谷合　隆一

第五十号の発刊おめでとうございます。広報紙と聞くと、とても懐かしい思い出があります。それは、保護司になって数年目、初めて広報部に配属となり最初の部会に出席した時のことです。その時点で集まっていた原稿を皆で校正するのがその日の作業でした。寄稿者の想いのこもった文面に、正しい漢字や句読点の位置、さらに言い回しまで、直しては何度も読み返しました。校長経験者の先輩からも手厳しい指導を受け、その日の内に電子辞書を買いました。毎号読みやすい紙面に出来上がった広報紙の、陰の苦労を初めて知った一日でした。

第九代会長　髙野　佳子

平成八年二月に私は保護司を委嘱されました。同四月に府中保護司会は北多摩南地区保護司会より独立し、翌年七月に待望の機関紙創刊号が発行されました。広報部に配属され、当時の部長さん、先輩の皆様から学び、赤鉛筆と辞書を持って、楽しく部会に参加したことが思い出されます。

二十数年が経過し、原稿はパソコンで作成し、データ送信をすれば、切手を貼らず依頼先へ届きます。変わらないことは、丁寧で思いやりのある広報紙は情報を伝えるのみならず、送り手と受け手に信頼関係が生じるものと信じております。

第４９号
（令和３年９月１日）

＊府中地区 BBS 会発足
＊日本更生保護協会主催の「オンライン講演会」を受講

第４０号
（平成 29 年３月１日）

＊「府中地区保護司会と府中地区更生保護女性会の創立 20 周年記念式典」を開催
＊多摩地区保護司会全体研修会を「府中の森芸術劇場」にて開催
講師:水谷修氏(夜回り先生)

第３９号
（平成 28 年９月１日）

＊新任保護司へのアンケートを実施
＊「社会を明るくする運動」の街頭広報活動に、市内公立中学校全 11 校の生徒が参加

第３７号
（平成 27 年９月１日）

＊府中地区保護司会創立 20 周年へ向けてアンケートを実施
＊府中市旧西部出張所に「サポートセンターふちゅう」を開所

令和三年度（秋）受賞者

（敬称略）

❖府中地区保護司会

藍綬褒章
伊藤敏春

法務大臣表彰
大沢美保子

全国保護司連盟理事長表彰
加藤茂
毛塚邦明
山本裕章

関東地方更生保護委員会委員長表彰
秋山勤
伊藤ゆきえ
山上稔

関東地方保護司連盟会長表彰
宮本至隆
森岡潤家

東京保護観察所長表彰
関口直子

東京都保護司会連合会会長表彰
石塚百合子
矢島千里

東京保護観察所長感謝状
家族功労　野口富平

府中地区保護司会永年在会
二十年　大沢美保子
西谷照代
十年　伊藤仁
小澤秀敏
佐藤政利
那須史子
室惇子

❖府中地区更生保護女性会

日本更生保護女性連盟会長表彰
奥田美津子

関東地方更生保護女性連盟会長表彰
堺美佐子

東京保護観察所長感謝状
時田好子
若松正子

東京更生保護女性連盟会長表彰
田中陽子

藍綬褒章を受章して

伊藤敏春

この度は、はからずも令和三年秋の褒章に際しまして藍綬褒章の栄誉に浴し身に余る光栄に深く感激しております。これもひとえに皆様方の温かいご指導ご支援の賜物と感謝申しあげます。又、陰ながら私のわがままを許して社会貢献活動に打ち込ませてくれた家族にも与えられたもの、と考えております。

今後はこの栄誉に恥じることのないよう更に精進致す所存でございますので変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

法務大臣表彰を受賞して

大沢美保子

この度、令和三年度の法務大臣表彰を受賞しまして、大変光栄に存じます。豊島区の顕彰式典会場でメダルと賞状を頂きました。メダルの裏には自分の名前が記され、首にかけるとその重みと大切さをしっかり感じ取ることができました。

保護司の仕事は、なかなか苦労も多く、それを間近で見てきた家族が「誇りに思う」と、とても喜んでくれたのは嬉しいです。

お世話になった皆様に感謝申し上げると共に、今後も地道に歩を進めていきたいと思います。

新任保護司

令和三年度市民表彰
社会福祉功労（敬称略）
髙橋淳二　三浦智恵美

令和二年九月十七日付

市橋（いちはし）正造（しょうぞう）（研修部）

私は、現在、司法書士・税理士の仕事をしており、その社会貢献的・公益的な活動の一環で、成年後見人として、判断能力が不十分な方々の暮らしと財産を守る活動をして参りました。そんな折、地域の青少対でご一緒させていただいた大先輩から推薦をいただき、保護司を拝命いたしました。社会に貢献できるよう努めてまいります。

内藤（ないとう）祐治（ゆうじ）（研修部）

「うちの親は、小遣いを沢山くれる。自分好き勝手にしても怒らない。周りからはいい親だなって羨ましがられる。僕が親に求めていたものは、部活の試合を見に来て欲しかった。もっと一緒に食事をしながら話したかった。そんなささやかなこと。」幸せのカタチは沢山ある。忘れずに活動していきたいと思っております。これからどうぞ宜しくお願い致します。

更女の活動

府中地区更生保護女性会

秋山　ヨリ子

今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、「日帰り管外バス研修会」をはじめ、殆どの活動が自粛を余儀なくされましたが、緊急事態宣言は解除され、徐々に感染者が減少した十月九日、第六中学校において「道徳授業参観」が二年ぶりに行われました。減少したとはいえ、感染を考慮し参加人数を縮小して、各クラス一名ずつでの参観となり、少し寂しい気持ちでおりましたが、生徒の皆さんの元気な挨拶を受けて、安心とともに元気を頂きました。参観させて頂いたクラスは、一年生でしたので、「家族愛」と言うテーマは、少し難しそうでしたが、一生懸命考えて、意見を述べている姿を見て、何か感動してしまいました。家族や人に対しての思いやりがいかに大切か、この授業をきっかけに、感じてくだされればと思いながら、久々の緊張感と会員の皆様に会えた喜びで、心が満たされた一日でした。

「府中地区ＢＢＳ会」を発足して

会長　岩崎　弘治

２０２０年の12月にスタートした府中地区ＢＢＳ会は、早いもので、結成から１年が経ちました。新型コロナウイルスという未曽有の災害の中で、結成から、こうして会を存続させられていることは、ひとえに保護司会、更生保護女性会をはじめとした関係者の方々のおかげでございます。この場を借りて感謝を申し上げます。

さて、結成以来、友人や知人にＢＢＳについて話す機会があります。その際ＢＢＳって何?更生保護・ともだち活動って何?と聞かれることが多く、周知の必要性を強く感じます。地域の方々、または関係機関の協力を得られるべく認知度を上げ、地域全体で効果的に更生保護活動を行っていける環境づくりも、ＢＢＳ会としてお手伝いさせていただけたらと考えています。

先の見えないコロナ禍ですが、できることを一つ一つ見つけ、府中地区の更生保護活動に貢献していく所存です。保護司会、更生保護女性会の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

府中市再犯防止推進計画

府中市福祉保健部地域福祉推進課社会福祉係
岡田　渉平

府中市再犯防止推進計画について、再犯防止に関する業務の担当者として述べさせていただきます。

令和３年度から令和８年度を計画期間とした「府中市地域福祉計画・福祉のまちづくり推進計画」が策定され、約１年が経過しました。

本計画は、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項として、再犯の防止等に関する内容を盛り込んでおり、本計画を再犯の防止等の推進に関する法律 第８条に規定する「市における再犯の防止等に関する施策の推進に関する計画（地方再犯防止推進計画）」として位置付けております。

犯罪をした者等の中には、高齢者や障害のある人等の福祉的な支援が必要な人、出所時に住居や就労が確保できず、生活が不安定な人など、社会復帰に多くの困難を抱えている人がいます。

市民が安全で安心して暮らせる社会づくりの実現のためには、犯罪を未然に防ぐことに加え、犯罪をした者等が抱える課題を社会全体で解消することで、その立ち直りを支援し、犯罪や非行の繰り返しをなくしていく再犯防止等の取組を推進していくことが不可欠です。

本市では、府中地区保護司会、府中地区更生保護女性会等と協力し、社会を明るくする運動を始めとする再犯の防止、更生保護に関する啓発活動及び関係団体の活動支援に取り組んできました。

今後も犯罪をした者等が地域に復帰するに当たり、適切な保健医療及び福祉サービス等の継続的な支援を円滑に受けることができるよう、関係機関との連携を強化します。また、犯罪をした者等を孤立させることなく支え合う地域づくりを目指し、再犯防止等に関する取り組みについて、市民への周知及び啓発等を進めてまいります。

これらの取組を実施するには、われわれ行政だけでは実現できるものではなく、保護司の皆様のご理解、ご協力が不可欠です。

府中地区保護司会の皆様には、引き続きご理解、ご協力いただきますようお願い申しあげます。

府中警察だより

生活安全課少年第一係係長
西澤　正大

皆様には、平素より警察活動に対するご理解とご協力を賜りまことにありがとうございます。

今回は、防犯アプリ「Digi Police（デジポリス）」を紹介させて頂きます。

「Digi Police」とは警視庁公式の防犯アプリになり、自宅周辺や知りたい場所の犯罪発生状況や特殊詐欺の被害発生情報、アポ電情報等の防犯に役立つ情報をタイムリーに確認することができます。

その他にも、特殊詐欺の被害に遭わないための動画等を紹介した「詐欺まるわかり」コーナーや子供及び女性の防犯対策を紹介した「子供と女性の安全」コーナー、さらには、防犯ブザー機能・痴漢撃退機能を備えるなど、各種防犯活動に有効なコンテンツが満載ですので、是非「Digi Police」をインストールして、皆様の防犯に役立てていただければと思います。

※「Digi Police」は「App Store」及び「Google Play」からダウンロード可能となっております。

府中地区保護司会コラム⑭

月刊誌「更生保護」の表紙絵

室　　惇子

銀座四丁目交差点のすぐ近くにナカジマアートという画廊があります。ここには画家の堀文子さんの部屋があり、銀座に出ると堀さんの絵を見てグッズを買う私の大好きな場所です。

ある日ナカジマアートから発表展の葉書が届きました。その葉書の絵を見てどこかで見たことがあると・・・。そうだ「更生保護」の表紙だ。すぐ出して見るとまさにそうでした。

発表展には大久保智陸さんの一年間（2019年8月～2020年7月号）の表紙絵が並んでいました。オーナーの中島さんに伺うと、1987年7月号の表紙絵を平山郁夫画伯が担当されてから順次後輩の作家がリレー方式で一人一年間担当し現在に至っているとのこと。

私達更生保護に携わる人々の教養研鑽の一環として編集されているであろう「更生保護」の表紙絵にそんな成り立ちがあったことを知りました。毎年秋になると平山郁夫画伯の来年のカレンダーのご案内があるのも頷けます。

銀ブラの折にはナカジマアートに立ち寄ってみてはいかがでしょう。

退任保護司

長い間ありがとうございました

山上　稔
令和四年一月三十一日付

宮本　至隆
令和四年二月二十八日付

活動日誌抄

9月
・都薬物乱用防止推進地区協議会（書面）

10月
・保護司候補者検討協議会
・第7ブロック組織運営連絡協議会

11月
・東京更生保護施設連盟
　創立70周年記念事業
・多摩連常任理事会
・東京更生保護事業関係者顕彰式典
・社会福祉協議会理事会

12月
・保護司特別研修
・第2回東京保護司代表者協議会

1月
・むさし府中青年会議所賀詞交歓会
・第1回府中市民生委員推薦会

2月
・社会福祉協議会理事会

3月
・第3回東京保護司代表者協議会
・社会福祉協議会理事会

編集後記

第50号記念号をお届け致します。歴代会長から在任時の広報紙の思い出をご寄稿賜りました。

広報紙の歩みでは、部員で手分けをし、第1号～第49号までの広報紙を熟読し、紙面の都合上、特筆すべき記事が含まれたものを掲載致しました。歴史の一端をくみ取って頂ければ幸いです。府中地区保護司会の先進的な取り組み等、25年間の歩みを知るよい機会となりました。今日まで営々と年2回の発行が持続されてきたことに感服すると共に、広報紙の果たす役割の大きさや持続の重要性を再認識させられました。

記念号にご寄稿賜りました皆様ご協力頂いた方々に感謝申し上げます。

コロナ禍、活動には苦労も伴いますが、今後も最善を尽くして取り組んで参りたいと思います。表紙は「府中と宇宙」です。宇宙に思いを馳せてみてはいかがでしょう！

隆　ミワ子

広報部

部長　室　惇子
副部長　隆　ミワ子
書記　田中　節子
会計　前田久美子
赤塚　正坦

吉野　博文
山上　稔
古川　耕央
中込八重子
石塚百合子
矢島　千里

題字は高野市長の揮毫によるものです